瀬戸川だより

～瀬戸川で活きる。そして生きつづけたい。～

2023年（第25号・冬号）

発行元
土佐町役場　企画推進課
☎0887-82-2450
○瀬戸コミュニティセンター
☎0887-72-9114
○南川会館
☎0887-72-9611

リニューアルしました

先日、カジ蒸し剥ぎの看板が瀬戸川ロマンの会長と副会長のお二人の手で、新しい場所に書き換えられました。

ちなみに、川奈路の憩いの広場も手入れされて、皆様のお越しをお待ちしています。

稲叢山伝説の洞窟（右陣）

稲叢山登山道（稲村ダム側）を登ると、中腹辺りに伝説の洞窟が見えてきます。

ここは、源氏に敗れた落武者が立て籠もったと云われる右陣（見張り場所の一つ）で、ここから源氏の動向を見張っていたのかもしれない・・・。

お味噌談義中

去る晩秋に、南川中村味噌組合改め「おみそくらぶ」として、初の自家用仕込みを行うべく、土佐町内の助っ人たちと談義している風景です。

令和5年12月をもちまして「おみそくらぶ」完全解散します。

興味のある方は
南川会館　☎72-9611　まで

残したい日常

この風景は、ご近所同士の何気ない日常のひとこまです。たくあん漬けにする前、畑から掘り出した大根を一輪車に乗せたまま、頭を突き合わせて無心で洗っている姿です。

ひときわ、美味しいたくあんになったでしょうね。

おしめ

　お正月に玄関に飾るしめ飾りなどを、私たちの住む瀬戸川では通称「おしめ」といいます。
　一家の長(世帯主)が玄関だけでなく、神様、仏様(お墓も含む)や南川八十八ヶ所など多い家では80本綯う方もいらっしゃいます。
　年末の仕事としていましたが、今は綯える方がなく近所に頼んだり、稲わらの確保も難しくなっています。
この慣習もいつまで続けて行けるでしょうか。

ヤマセミ現る

　ヤマセミ（ブッポウソウ目カワセミ科）が、瀬戸コミュニティセンターに訪ねてくるようになりました。毎日窓ガラスに映る自分の姿に見惚れているようです。可愛い～！

2023年１月現在の人口など

地　区	人　口　等
南　川	人口　　32人（入院中の方を含む）
	世帯数　16世帯
下瀬戸	人口　　7人（入院中の方を含む）
	世帯数　4世帯
黒　丸	人口　　23人（入院中の方を含む）
	世帯数　15世帯

※ここでは実際に瀬戸川地区に暮らしている方々の人数等を載せています。

「瀬戸川だより」に対する感想・お問合せはこちらへ！！

【南川】〒781-3742　土佐町南川1224-2
南川会館　小林聖花宛て
email：minagawa@utopia.ocn.ne.jp
【瀬戸】〒781-3337　土佐町瀬戸658
瀬戸コミュニティセンター　岡林孝通宛て
email：okabayashi@herb.ocn.ne.jp

集落支援員のつぶやき
～備えあれば憂いなし～

「今そこにある危機」と言うと大げさかもしれません。ある番組で、高知県沿岸の津波タワー避難所の紹介を見ました。南海トラフ地震の津波の想定を上回る高さで建設され、水や食料の備蓄をしており、数百人の避難民を収容可能とのことです。
　私達が住むここ土佐町は山間部であり、津波の心配はないとはいえ、地震によるインフラ整備の崩壊で孤立が心配されます。救援物資が届くまで、最低３日間堪える備えが必要とされます。一番大事なことは、自分の身を守ること。いつも寝ている場所に重く倒れやすい物（タンスなど）が倒れないよう対策をとり、夜の地震発生に備えて、靴など（割れたガラスから足を守るもの）を枕元に置いておくといいですよ。
　自分の身を守ることで、他者の救援もできます。防災グッズを買っていても、命の危機では使うことができません。
　今一度家の中の点検をしてみるといいですね。

〈地震年表〉東南海地域

（西暦）		（休眠期間）
684年	白鳳地震	～
887年	仁和地震	（203年）
1096年	永長地震	（209年）
1361年	正平地震	（265年）
1498年	明応地震	（137年）
1707年	宝永地震	（209年）
1854年	安政地震	（147年）
1944年	昭和南海地震	（90年）
2023年	（現在）	（79年）

瀬戸地区集落支援員　岡林孝通